

平成21年

3月

No. 545



広報

いいたて

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>



2/20

白石小学校に、木製の机と椅子が整備されました。
県の「森林環境交付金事業」を利用したもので、県産間伐材を使用しています。

木製の机は、空気中の湿度を保ち、環境を整え、人の心理面などに良い影響を与えるといわれており、人に“やさしい”ところがたくさんあります。

子どもたちは、木製の机と椅子を使って、木の香り、ぬくもりを感じていたようでした。



大いなる田舎 まていうイフ・いいたて

わかちあおう、仕事も家庭も喜びも



2/26 いいたてならではの「までい」な子育てフォーラム

村商工会が主催した「までい」な子育てフォーラムが村公民館で開かれました。これは、村が県の「福島県地域の子育て応援交付金」を受け、村商工会に委託して子育て支援を進めているものです。このフォーラムは、その事業の一つとして取り組まれました。

はじめに主催者を代表して、庄司和明商工会長のあいさつがありました。

フォーラムでは、福島県立医科大学教授・藤野美都子さんによる基調講演、3カ月間の育児休業制度を取得した、福島県職員・戸城和幸さんの体験談、「男性産休シンポジウム」を通して、子育てを応援する環境づくりについて考えました。

会場には村内外から80人以上が訪れ、講師やパネラーの話に熱心に耳を傾けていました。

尚、当日は「ナイスパパ表彰」もあわせて行われました。



▲家族への「誓いの言葉」を述べるナイスパパのみなさん



▲ナイスパパ表彰を受ける安齋さん

家事も育児もする

我が家の夫は「たそがれ清兵衛」

◆基調講演◆ 福島県立医科大学教授

藤野 美都子さん



福島県立医科大学教授藤野美都子さんが「パパの育児、真の男女平等社会へ」21世紀の『たそがれ清兵衛』を夫にもつ立場から」と題した講演を行いました。

藤野さんは、共働きのため、保育園送迎や買い物、子どもとの時間を大切にしてくれる夫を、映画「たそがれ清兵衛（※1）」の主人公になぞらえて、働きながら子育てをしていた父親の姿などについて述べました。

「共働きなので、夫が授業参観も休暇をとって観にいっ

てくれた。保育園の送迎もあったため、残業についても上司に『夜は7時前しかできない』と申し出てくれ、子どもとの時間を大切にしていた」

「当時、『夕方の買い物で、子どもをつれて、トイレットペーパーを持つことが気恥ずかしい』と話す夫に、男女の意識の違いを感じた」などと、ユーモアを交えながら話しました。

「夫は育児休業を取得しなかったが、当時は、育児休業は、取得期間は無給、さらにマインাস評価にもつながるなど、子育てには不利だった。夫は、今でも育児休業を取得できなかったことを残念に思っている。

今後、行政はもっと制度を後押しするべき」と、これからの課題などについても話されました。

3カ月間の育児休業制度を取得した、福島県企画調整部企画調整課職員の戸城和幸さんが、「男の育児休業——3カ月の経験から」と題した育児体験談を述べました。

「育児休業申請後、職場で産休に入る人もいたので、取得するかどうか悩んだ時期もあったが、周囲が応援し、協力してくれたことで、充実した育児ができた。保育園への送迎時間を考え、自分なりに効率的に仕事できるようになり、子育てを自分自身の成長にも

つながった。」と自らの体験を振り返りました。

「男性は、いざ子どもが生まれてから、家事・育児の両方を行うことは難しいので、その前から、家事は分担し、慣れたほうが良い」

「子育てに関して、男性は、『妻が仕事を休めないので送迎に……』など、すぐに理由をつけたがる。迷惑だから休めないのではなく、単純に『子どもが生まれたから休む』というのが『当たり前』の環境を、本人や周囲も考え、整えていかなければならぬ。これからは、『育児休業はいつから取ってくれるの?』が普通の会話になるべき」と、今後の育児環境や意識を変える必要について話されました。



◆育児体験◆ 福島県職員

戸城 和幸さん

「育児休業を取るの?」から

「育児休暇、いつから取るの?」の時代へ

※1 映画「たそがれ清兵衛」(山田洋次監督)…幕末の庄内で、妻を亡くし、二人の娘と老母のため、下城の太鼓がなると家に帰り、家事や内職に励んでいた平侍の清兵衛と親子のふれあい、幼なじみとの秘めた恋、そして命をかけた壮絶な果たし合いを描いた内容(「たそがれ清兵衛」公式サイトより抜粋)

◆男性産休シンポジウム



▲それぞれの想いを語るシンポジウム

「男性の産休」をテーマに、菅野村長が進行役を務め、パネラーの藤野さんと戸城さん、ナイスパ表彰者の村上真平さん（前田）、同じくナイスパ表彰を受けた菅野昭生さんの妻、菅野律子さん（長泥）が、それぞれ配偶者や子育てに対する思いや希望する子育て支援などを発表しました。

加は

—これからのパパの育児参加は

藤野美都子さん・村には「パパ・クオータ制度」があると聞いた。これから男性もどんな育児休暇取得をしてほしい。ただし経済的支援は不可欠。

—どんな子どもになってほしいか

村上真平さん・室内で遊ぶのはすぐにあきるが、自然は何でも遊ぶ道具になる。子どもには、自然の中で生きてほしい。

—夫や村に対して「もっとしてほしいことは」

菅野律子さん・夫は、子どもにも私にも優しく、一緒に子育てをしてくれる。子育てにはお金がかかるので、村には「もっと」子育て支援をしてもらいたい。

—県の少子化対策や子どもの人数について

戸城和幸さん・子どもは3人いると「社会」ができ、人間関係の勉強になる。安心して産み育てられる環境づくりが急務。

ナイスパパ表彰式

子育てに頑張っている素敵なお父さんを認定。応募者の中から選ばれた5人に、庄司商工会長から認定書と記念品が贈られました。



石井眞治さん (草野)

マラソンを頑張った子どものことを、力の入った作文で発表。親子の触れ合いを感じさせた。
記念品・スポーツグッズとおにぎりの型枠



安齋正志さん (飯 樋)

子どもと一緒に雪合戦や逆立ちまでやってくれて、お料理もこなすパパ。
記念品・フライパンと焼きそば



村上真平さん (前 田)

出産にも立ち会ってくれたやさしいパパ。夫婦が協力して子育てと農家レストランを経営。
記念品・木製おもちゃ



菅野昭生さん (長 泥)

毎日のお風呂、ミルク、オムツ交換まで、できそうできないことを当たり前に行ってくれるパパ。
記念品・絵本と父子手帳、栄養ドリンク



大和田章さん (小 宮)

家族ぐるみで太鼓に取り組んでいる太鼓家族のパパ。
記念品・デジタルフォトフレーム

今回ナイスパパに認定された5人のみなさん